

「第4回徳山ダム環境保全対策委員会」審議内容メモ

日 時：平成13年10月21日 13:00～16:00

場 所：ホテルプリシード名古屋 3F芙蓉の間

出席者：(委員)佐藤委員長、阿部委員、駒田委員、前田委員、松井委員、
中村委員、水野委員、西條委員(abc順)
(事務局)約40名

【審議内容等】

1. 前回(第3回)議事録確認

第三回委員会の審議内容を確認した。

2. 事業実施計画と今後の計画について

工事実施状況を確認した。

エコマップについては、自然環境保護上の問題に留意して、年度末を目途に作成していくことを確認した。

水源地生態系育成事業の進展状況の説明を確認し、区域指定の実効性確立に向けた岐阜県への更なる働きかけと情報収集を求めた。

環境学習会の発展型として、徳山ダム湖を環境学習の場とする整備について意見があった。

3. PTからの報告

ワシタカPT

1) 調査結果について

クマタカのみについて巣立ち幼鳥、育雛幼鳥を各1つがい(計2つがい)を確認した。

2) CCDカメラによる工事影響把握について

a) CCDカメラ設置について

繁殖生態を解明でき、工事の個別の影響への反応を評価できる。学問上も意義深い

b) ビデオの委員会席上での公開について

報道関係者の退席を求めず、上映した。

c) ビデオの一般公開について

公開は解析後にワシタカPTで判断する。

河川環境PT

1) 環境保全河川

魚類の乱獲等による危機的な状況を確認し、自然保護への迅速かつ効果的な対応と、環境保全河川の実施や河川管理への関与に当たっては万全を期すことを強く求めた。

外来魚の不法移入阻止に務めるべきことを確認した。なお、本件は河川の生態系全体に及ぶものである。

2) 貯水池末端における堆砂閉塞による魚類の移動域分断について

横山ダム貯水池での調査結果を基にした、徳山ダム完成後の流入部における堆砂閉塞の可能性は低いという説明を確認した。

陸域環境：生育・生息環境 P T

- 1) コウモリの横山ダム湖面利用状況調査について報告があり、湖面や湿性地在が餌場として利用されることを確認した。
- 2) 餌としての昆虫類の調査結果から、湖心域でも昆虫が飛んでいることを確認した。
- 3) ブチサンショウウオ調査によって、ブチサンショウウオの生息域はダム建設による影響を受けない。カスミサンショウウオ、クロサンショウウオは今回の調査と生息分布から、生息していないものとおもわれる。
- 4) 湿性地在について、実験地の設置及びこれまでの順調な遷移を確認した。また、コウモリ類への有効性も確認された。

陸域環境：植物 P T

- 1) 法面緑化について、在来種への遷移を前提とした植生回復状況の説明をし、理解を得た。
- 2) 材料採取地の植生回復について下記のとおり確認した。
ロック山・コア山の植生回復については表土の有効利用をする方針を確認した。
なお施工にあたっては生物への配慮を視野に入れて実施するよう意見があった。
- 3) 湖岸周辺環境について
事務局提案の周辺環境の措置については高く評価し承認した。

4 . 岐阜県レッドデータブックの紹介と適用について

「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物 - 岐阜県レッドデータブック - 」の刊行により新たに22種が「重要な種」に該当することを確認した。次回の委員会に向けて、所要の検討を行うものとする。

5 . 審議内容の確認

本日(10月21日)の審議結果を本メモに基づいて確認した